

# 第13期事業報告

2016(平成28)年10月1日から2017(平成29)年9月30日まで

特定非営利活動法人 ニンジン

## I. 事業の成果

2016年9月1日から3年間にわたるJICA草の根技術協力事業「モンゴル障害児療育・教育支援及び療育関係者の育成事業」の1年目が終わり、専門家の渡航も4回を終えている。ニンジンとしてはこのような大がかりな事業は初めてのことであり、専門家のチームメンバーがこの事業を円滑に実施し成果を上げることを目指してきた。

これまで進めてきた「早期発見・早期療育の実現をめざす」療育支援の動きについては、草の根事業がメインで担うことになった。草の根事業以外では、第2回招へいプログラムで来日したメンバーの強い要請を受け、障がい者の社会的自立に向けての指導者がモンゴルを訪問した。保護者の会の最近のニーズを把握することができた。

3回目となる招へいプログラムで、集団保育の指導ができる人材(保育従事者、保育士)を育成することを目指して、保護者の会で立ち上がっている自主保育グループへの支援となるよう計画し準備を進めてきた。(実施は、14期2017年11月20日から12月4日)

今期の車いす支援は、2017年4月末から事務局がモンゴルに車いすを運搬し、現地協力者と、前年採寸したお子さんへの車いすの調整、配布を実施し、今後、車いす専門技術者が訪問しないで支援を継続する方法を関係者と協議した。

タイについては、北タイのNGOルデラ(ラフ農村開発)と協力し、北タイへのスタディツアー、高校生のスタディツアーコーディネートを継続実施した。

事業拡大に伴い事務局機能の充実を計画していたが、事業に追われて運営基盤の確保は課題のままである。

## II. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
<b>1. アジア諸国等海外の障がい児・者に対する療育等支援事業</b>						
<b>(1) JICA 草の根技術協力事業-----モンゴル障がい児療育支援事業</b> 「モンゴル障害児療育・教育支援及び療育関係者育成事業」						
ア. 専門家派遣	第2回専門家派遣 第3回専門家派遣 第4回専門家派遣	10月1日	モンゴル国、ウランバートル市	8人	障がい児医療従事者：約60人 障がい児・者と家族：約100人	3,310
イ. 現地での日常活動	現地補助員が2か所の障がい児センターを訪問して活動（読み聞かせや、給与・交流費の支払い等）	9月30日				
ウ. 国内での活動	隔月のスカイプ会議、Facebookによる連携、教材開発他	年間				
<b>(2) その他のモンゴル障がい児療育支援事業</b>						
ア. 専門家の訪問	前年の招へいメンバーの要請によりNPO法人ぱれっと創始者の谷口奈保子氏がモンゴルを訪問し、講演会を2回開催した。あわせて車いすを運搬し、配布を実施。	4月27日 ～ 5月8日	モンゴル国 ウランバートル市内、障がい児保護者の会 他	5人	障がい児・者と家族：約100人 障がい児者にかかわる政府およびNGO関係者：100人	456
イ. 車いす支援	車いす、バギー等を収集し、27台をモンゴルに運んで保護者の会へ寄贈した。現地協力者の手により調整して手渡す。今後の方法を協議した。	11月 ～ 8月	東京都板橋区、上尾市、ウランバートル市、	5人	モンゴル国の障がい児・者と家族：約100人	181
ウ. 活動報告会	事業の報告会を開催し、あわせてモンゴル音楽を聴いた。	6月10日	東京都新宿区	20人	一般市民：191人	205
エ. 支援事業の運営	上記事業および交流ツアー、次期実施の招へい事業の準備を実施。	年間 2	モンゴル国ウランバートル市、東京都中央区	4人	障がい児・者と家族：約100人	10

2. 海外の障がい児・者等との交流事業						
(1) モンゴル、タイ等への研修・交流ツアーの企画実施						
ア. モンゴル交流ツアー	車いす9台を運び、ウランバートルとアルハンガイ県を訪問し、観光。保護者の会等を訪問。	7月31日～8月7日	モンゴル国ウランバートル市、南ゴビ	3人	モンゴルの障がい児及び家族	1,519
イ. 北タイ・焼畑の村スタディツアー	北タイのラフ族の村に滞在し、森復活の取り組みに学び、村人と交流した。	3月10日～3月17日	タイ、チェンマイ、チェンライ、	3人	北タイラフ族等：約100人	653
ウ. タイへの高校生スタディツアー	東京・順天高校のタイ修学旅行の北タイ滞在期間について、ツアーの企画・コーディネートを行った。	7月24日～8月3日	タイ、チェンライ、パヤオ、チェンマイ	5人	日本の高校生および教員：23人 タイの現地交流相手：約500人	1,993
3. 啓発事業						
(1) セミナー等の開催	招聘プログラムの報告を中心に公開フォーラムを実施した。	10月1日	練馬区役所	6人	モンゴルの障がい児に関心のある市民および関係者：30人	16
4. 文化交流事業						
	実施なし					0
5. 情報提供事業						
	HP、ブログ等の発行により情報を発信。	随時	法人事務所	2人	一般市民：不特定多数	0

### Ⅲ. 事業の報告

#### 1. 海外との協力事業——モンゴル障がい児療育支援事業

##### (1) JICA草の根技術協力事業

2016年9月より始めた「モンゴル障害児療育・教育支援及び療育関係者育成事業」は、無事初年度を終えることができた。

この事業では障害児の療育と教育が行き届いていないモンゴルで、親たちが立ち上げた2カ所の障害児センター、ゲゲーレンセンターとサインナイズセンターで療育・教育指導を行い、障害児センターのモデルとする目標を立てて取り組んでいる。実施期間は2016年9月から2019年8月の3年間である。

長期現地滞在型ではなく、年3回の渡航時に多くの活動を実施する方法をとったため、渡航しない時期の現地での活動方法を見出すまでに時間が必要だったことなど反省点もあったが、両センターで親子が集まって、集中的に草の根の療育と教育活動を行なう形を見だし、次年度への活動につなぐことが出来た。3回の渡航時に療育関係者へのセミナーを実施してきた。今後は療育関係者との連携体制を整える方向を見出すことが課題である。

##### ア. 専門家派遣……ウランバートルに渡航しての活動

###### ➤ 第2回専門家派遣 2017年3月20日～2017年4月5日

メンバー：梅村浄(チームリーダー、小児科医)、諸石真理子(理学療法士)

野口陽子(元養護学校教員、堤由貴子(作業療法士)

実施内容：

- ・ゲゲーレンセンター、サインナイズセンターでの療育、教育指導、評価を実施
- ・療育者養成セミナー(参加者26人)と2センターにおける実習
- ・家庭医・看護師セミナー(参加者35人)
- ・上記2セミナーは保健省の認可を受け、受講者には単位を授与することとなった。
- ・親の会セミナー(参加者56人)
- ・関係機関への訪問

###### ➤ 第3回専門家派遣 2017年6月18日～2017年6月30日

メンバー：諸石真理子(理学療法士)、野口陽子(元養護学校教員)

モンゴル大統領選があるため治安が危惧されたが、安全に実施できた。

実施内容：

- ・ゲゲーレンセンター、サインナイズセンターでの療育・教育指導、評価を実施

- ・療育者養成セミナー（参加者 21 人）と 2 センターにおける実習
- ・関係機関への訪問
- ・2 センターのリーダーとの話し合い

➤ **第 4 回専門家派遣** 2017 年 9 月 17 日～29 日

メンバー：城良二(整形外科医) 諸石真理子(理学療法士)

野口陽子(元養護学校教員)

実施内容：

- ・ゲゲーレンセンター、サインサイズセンターでの療育、教育指導、評価を実施
- ・2 センターに中古車椅子と歩行器の寄附
- ・2 センターの親に療育ミニセミナーを実施
- ・2 センターでの教育指導内容を再編成
- ・療育者養成セミナー（参加者 29 人）と 2 センターにおける実習
- ・家庭医・看護師セミナー（参加者 14 人）
- ・親の会セミナー（参加者 18 人）
- ・関係機関への訪問
- ・2 センターのリーダーとの話し合い

**イ. 現地での日常活動**

- ・現地補助員が 2 センターを定期的に訪問し、リーダーに給与支払い、スタッフに交通費支払い、療育と教育活動の調整を行う。
- ・2 センターでの読み聞かせ
- ・スカイプ会議の招集と通訳
- ・Facebook のグループページ “NINJIN kusanone”（草の根関係者-日本人、モンゴル人）および “Ninjin өвсний үндес төсөлз”（モンゴル人向け）の立ち上げと管理
- ・翻訳

**ウ. 国内での活動**

- ・モンゴルの両センターと隔月の skype 会議、相談
- ・Facebook による連携
- ・教材開発
- ・セミナー準備
- ・JICA のマネジメント研修に参加
- ・JICA の危機管理研修に参加
- ・JICA への報告書作成
- ・JICA との経理報告書作成と会計管理
- ・資料の管理

## (2) その他のモンゴル障がい児療育支援事業

### ア. 専門家の訪問

2016年9月に2回目の招へいプログラムで来日したメンバーの強い要請によりNPO法人ぱれっと創始者の谷口奈保子氏がモンゴルを訪問し、主に知的障がい関係の視察、および講演会を実施した。

実施期間：2017年5月1日(月)～5月8日(月) 8日間

事務局は、4月28日(金)～5月8日(月) 12日間

訪問メンバー：谷口奈保子（認定特定非営利活動法人ぱれっと理事）

武安 倫（認定特定非営利活動法人ぱれっと職員）

槇ひさ恵（事務局）

現地協力：Sed Ayushav Batkhishig(ヒシゲー)さん（現地調整・通訳）、

主な訪問先：保護者の会、トランジションプログラム、

第63特別支援学校（知的障がい児が通う、ハンオール区）

国立メンタルヘルスセンター

ウランバートル市副市長

ソングノハイルハン区役所、区内のデイケアセンター(作業所)

全国障害者団体連合会、自立生活センター、

オユン元議員、ダウン症協会、他

講演会：1) 労働社会保障省主催（トンガラクタミル人口開発局長）

日時：5月4日(木)10:00～12:00

会場：労働社会保障省ホール 100人

対象：障がい児者にかかわる政府関係者およびNGO

2) 保護者の会主催

日時：5月5日(金)10:00～12:00

会場：ホテルウランバートル

対象：保護者の会及び関係者 約50人

結果：・最近のモンゴルの障がい児者の状況について、視察、ヒアリングし、状況を把握した。自立生活センターをはじめとして障がい当事者自身が動き出している様子を見ることができた。

・保護者の会のリーダーたちが成人した子どもたちの社会参加を深刻な問題と受け止め、家を出て活動する場を作ろうと立ち上がり、その方策を求めていることがよく分かった。保護者の会の講演が終わった後も谷口さんへの質問が続き、相談に訪れる関係者も多かった。

・保護者の会では2016年から、大人への移行期の青年たち向けのプログラムを始めていて、働く場づくりに向けて動き出そうとしている。

## イ. 車いす支援

現地訪問については、2017年春は車いす技術者の訪問はなく、事務局が渡航時に運搬し、現地協力者と車いすの調整配布及び打合せを実施した。

実施時期：2017年4月28日（金）～5月1日（月）

実施内容：・2016年5月に採寸したお子さんに合わせて用意できた車いす4台、バギー1台をモンゴルに運んだ。小さいお子さん向けのバギーは見つからずさらに待ってもらうことになっている。

- ・保護者の会を会場に車いすを調整して渡した。
- ・今後の車いす支援の方法について、保護者の会、自立生活センターと協議を行った。

現地協力：ポーギーさん（自立生活センタースタッフ、車いす調整）  
アンフバットさん（車いすチーム通訳）

### 今後の車いす支援の方法

これまで日本で付属品を誂えて持参してきたが、今後専門家が訪問しなくても車いす支援を継続できるよう、本体以外のベルト、クッション等付属品についてはモンゴルで作ることとする。故障の時はポーギーさんに連絡を取る。

ニンジンに直接車いすの依頼が来た場合、保護者の会を通じて車いすの寄贈をしていることを伝え、連絡を取ってもらうこととする。

搬出日：2017年3月20日 13台（草の根チームの渡航時）  
4月28日 5台  
7月31日 9台（モンゴル交流ツアーで運ぶ）  
合計 27台

輸送協力：MIAT モンゴル航空

保管場所：今村運送・上尾引越センター

## ウ. 活動報告会

モンゴル支援事業の報告をチャリティーコンサート『モンゴルの風』とあわせ実施した。ロビーにモンゴルでの活動写真を展示し、ステージからも現場の状況を報告し、ニンジンの活動への理解を広めた。

開催日時：2017年6月10日（土） 19:00～21:00

会場：ルーテル市ヶ谷センター（東京・新宿区）

出演者：イフタタラガ（ホーミー&馬頭琴、モンゴル琴、ヨーチン）  
…バトエルデネ、ボルドエルデネ、ドルギオン、  
ミヤガマスレン、ネルグイ

報告者：梅村浄医師、

来場者：191人

## エ. 支援事業の運営

以上の事業を、日本においては事務局を中心として行い、モンゴルでは現地調整窓口を設けて事業を実施した。

## 2. 海外の障がい児者等との交流事業

### (1) モンゴル、タイ等へ研修・交流ツアーの実施

#### ア. 『モンゴル交流ツアー～車いすを届ける旅』

実施時期：2017年7月31日(月)～8月7日(月) 参加者：7人

内 容：車いす9台を持参、ウランバートル市内観光、保護者の会訪問、ツェンヘル温泉、ハラホリン観光  
ツェツェルレグにある保護者の会アルハンガイ県支部を訪問し、車いすを5台寄贈

#### イ. 『北タイ焼畑の村スタディツアー』の実施

ラフ族の人びとを主として支援してきたルデラ(ラフ農村開発)では、森の復活と農民の自立を組み合わせた取り組みを行っている。この取り組みの進捗を見てあわせて村の生活文化を体験するスタディツアーを実施した。

実施時期：2017年3月10日(金)～17日(金) 参加者：8人

内 容：チェンマイからチェンライへ移動。山の村でホームステイ、村の生活体験、森復活の取り組み見学、古着バザー開催、参加者の西さん、南出さんによる養豚講座の手伝いと見学、研修農場&子ども寮見学、夜勉強会等

#### ウ. タイへ高校生のスタディツアーのコーディネート

東京の私立・順天高校が行うタイ修学旅行の北タイ滞在期間について協力し、さまざまなハンディを抱える人々、また同世代の青少年と出会い交流するスタディツアーの企画・コーディネートを行った。

実施期間：2017年7月24日(月)～8月3日(木)

受入人数：順天高校より、生徒20人及び引率教員3人

内 容：<チェンライ>山岳少数民族ラフ族の村の生活体験、研修農場での体験、子ども寮での交流、

<パヤオ>学校訪問、

<チェンマイ>HIV/AIDS関連の活動、ストリートチルドレン関連施設などの訪問、視察交流、象乗り

協力者：ダイエー・セイリ氏(チェンライ)、川口泰広氏(チェンマイ)

## 3. 啓発事業

### (1) アジア諸国の障がい児・者及び少数民族支援等に関する啓発セミナー等の開催

モンゴルから招へい研修で来日中の障がい児保護者の会のメンバーを迎えて、



公開フォーラムを開き、あわせて交流した。

日時：2016年10月1日（土）

会場：練馬区役所 19 階会議室

内容：モンゴルの障がい児の療育の実現に向けて

1 部：JICA 草の根事業活動報告

2 部：招へいプログラムを終えて

参加者：30 名

#### 4. 文化交流事業

モンゴル支援事業報告会をもってあてた。

#### 5. 情報提供事業

##### (1) インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログによる発信に努め、情報の提供に努めた。

HP：http://www.ninjin-npo.org/

ブログ URL：http://blog.canpan.info/ninjin-jpn/

情報公開サイト、寄付サイトへの情報更新、イベント情報の発信を行った。

(日本財団 CANPAN、日本 NPO センターNPO ひろば)

##### (2) E メールニュース(ニンジン・アップデート)の送信

#### 6. 組織運営

##### (1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。

会員数	(2017年9月30日現在)
個人正会員	38人(38口)
団体正会員	0
個人賛助会員	40人(43口)
団体賛助会員	3団体

##### (2) 会議の開催

###### ア. 通常総会の開催

日時：2016年12月18日（日）

会場：中央区女性センター「ブーケ 21」研修室 3

(東京都中央区湊 1-1-1)

###### イ. 理事会の開催

期日：11月24日、9月15日、

###### ウ. 運営委員会の開催

理事および会員有志からなる運営委員により運営委員会を9回開催し、事業の詳細を協議し実施した。

(3) ニンジン・サポーターズ倶楽部

イベント等に出展して、ニンジンの宣伝・広報・募金活動に活躍した。

ア. 順天高校スポンサードウォーク

団体プレゼン：4月6日 榎

スポンサードウォーク：4月29日

ニンジンより2名、ニンジンのマークのついたTシャツを着て参加（阿部榮美子さん、新井利延さん）し完歩した。

受取寄付額：117,106円

イ. チャリティコンサート「モンゴルの風」 6月10日